

心のふるさとへ

飄

々

広報委員

堀 哲二

今年も暑い夏がやって来た。夏休みは行楽の季節でもある。特に盆の連休は誰もが何を差し置いても帰郷したいと思う。故郷を持たない都会生まれの人も、せめて先祖参りや大自然に触れたいと思う。日常生活を離れ自分の原点の再確認を求め、帰巢本能に導かれるように故郷を目指す。

だが、現実の故郷は果たしてその欲求を満たしてくれるだろうか。故郷の生活環境や人々の考え方はずいぶん様変わりした。そこに待っているのは故郷の厳しい現実社会である。

団塊の世代から子供・孫へと世代は移り、しだいに故郷とも疎遠になる。里山も過疎化が進み廃屋も目立ち、故郷を持たない人も多くなった。かつて慣れ親しんだ里山は立派に整備され昔の面影はない。このような変貌は時代の流れであるとは言いながら高度成長時代の負の遺産でもある。

生活環境以上に人の心はさらに荒廃した。感情を持たない人工知能に依存し、逆境への忍容性に乏しい孤独な人生を多くの人が歩んでいる。かつて人間はもっと違った生き方をしていた時があったような気がする。子供は自分の大きな希望を語り、家族は自分たちが達成できなかった夢を子孫に託していた。真正面に人生に立ち向かった温かい家族の絆が存在していた。

だれしも心の奥底に自分のよりどころを探し求めているのは確かであろう。夏休みは親族の絆を再確認できるよい機会である。

さあ、心のふるさとを求めて出かけようではないか。

かなえたい 未来がある。



応援してください。
やまぎんも、私も。

石川 佳純

 **YMFG**
Yamaguchi
Financial Group | **山口銀行**
YAMAGUCHI BANK